

[ 別紙 2 ]

## 論文審査の結果の要旨

申請者氏名 張 采瑜

本研究の課題は、台湾が経済発展する過程で生じる農業調整問題について、その発生メカニズムを理論と実証の両面から明らかにすることである。経済成長が進むと労働をはじめとする生産要素を農業から他の部門に移動する圧力が強まるが、農業の生産要素は労働であれ土地であれ、農業に特化したものが多い。そのため他部門への移動に抵抗し、低下する所得を補うための保護政策を政治的に訴えるようになる。これが「農業調整問題」である。したがって本研究の課題の解明には政治経済学的なアプローチが必要となる。

第1章ではこの分野における過去の研究成果を整理し、研究としてどのような部分が不足しているかを考察している。それを踏まえて、政府の公共財供給のメカニズムや農地価格の決定要因、農業の労働移動に影響を与える政策、経営効率の改善の追求などの研究が不足していることを明らかにし、本研究の具体的課題設定を行っている。

第2章では台湾の農業政策の展開過程を分析し、経済が発展途上段階にあったときの農業搾取的政策から経済成長につれて農業保護政策が採られるようになった政策過程を論じている。政策過程を分析するために、農業財政支出の項目を公共選択論の視点で公共財的支出から私的財的支出まで4分類し、それを日本と台湾で比較している。まず、両経済ともに、国家財政支出に占める農業財政支出のシェアは農業部門の集団としての規模と逆相関をもち、農業が集団として縮小傾向にあるとき、政治学でいう「集合行為論」が示すように集団へのタダ乗りが回避され、政治的結束が強化されるため政治力が高まることを示唆している。さらに、兼業化の進展や経営規模のばらつきなどが、農業財政支出の公共性を低下させるなどの興味深い結果が得られている。

第3章では農業における生産要素として重要な農地に関する分析を行っている。まず、台湾の農地規制を検討した上で、農地転用の分析を行っている。農地を農地として効率的に利用することは農地が限られている台湾や日本では必須のことであるが、一方、優良な農地ほど非農業用地としても使い勝手がよく、転用への圧力が高まる。分析では台湾の農地転用収入を推計しているが、1992年から2003年までに農業生産による付加価値と同じ桁の転用収入が発生していたことが明らかにされた。さらに農地価格の形成要因をヘドニック・アプローチで分析しているが、農業収益に関わる変数だけでなく、ゾーニング規制の程度や人口密度など農地転用期待を示す変数が農地の取引価格に大きく影響することが解

明された。また、農地転用規制の緩和は転用期待を増大させ、農地価格の上昇をもたらす効果があったことが示されている。

第4章では農地と並んで重要な生産要素である労働についての調整問題を論じている。台湾における農業労働移動の統計を用いて農業生産への影響を要因分解で考察した後、農工間労働移動のモデルを構築し、計量的に台湾の労働移動問題を分析している。その結果、台湾の農業就業者の減少は労働生産性を向上させるには十分ではなかったことが示されている。また、価格支持政策、農地転用規制、農業財政政策は農業労働の部門間移動を阻害し、構造調整を遅らせる効果を持つことが実証的に明らかにされた。

第5章では確率的費用フロンティアの手法を用いて、台湾の稲作経営の長期と短期の効率性を規模階層別に分析している。その結果、短期と長期の費用フロンティア上では規模の経済性が存在することや、人為的な費用非効率性が存在することが明らかになった。これは効率的な経営は規模拡大により平均費用が低下しメリットを受けられるのに対し、非効率な経営にとっては効率性改善が当面する問題となり、規模を拡大し規模の経済を享受する誘因が低いことを意味する。したがって、台湾の稲作経営の長期の効率性を改善するためには、効率が低い農家の経営改善を図りつつ、農地流動化を進める必要があることが示唆される。第6章では要約と結論が述べられ、今後の台湾農業の生産構造についての展望が記されている。

農業調整問題は台湾に限らず、日本など経済発展を遂げた諸国に共通する問題であり、農業保護政策の蔓延を防ぎ、グローバル化に耐えうる農業構造を作っていくためにも、解決すべき重要な問題である。本論文では、農業保護の実態を政府の農業財政支出の側面から把握し、その上で農業投入要素として重要な農地と労働に焦点を当てて、台湾の農業調整問題を実証的に明らかにした、優れた論文である。対象とされているのは台湾農業であるが、日本の農業や政策との比較も随所にちりばめられており、日本の農業政策にとっても示唆に富む論述が多くなされている。

農業政策は制度論に終わる研究が多い中、数量的に農業政策を把握し、政策が農地と労働を通じてどのように農業生産に影響を与えているかを計量的に評価している点が、特に高く評価できる。また、これからの台湾農業ひいては経済発展をとげつつある他のアジア諸国の農業のあり方を考える上でも大いに参考になる結論が得られている。このように本研究は学術上かつ応用上の価値が高く、よって審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。